

「研究計画書」(サンプル)

竹内晴夫

1. 研究テーマ

・「仮想通貨と貨幣信用論」

仮想通貨の貨幣性について貨幣信用理論を用いて分析する。

→論文タイトル「仮想通貨は貨幣として流通するか」

2. 研究対象と内容

(1) 研究対象：仮想通貨の貨幣性、貨幣の流通性。

(2) 研究内容

- ・仮想通貨ビットコインのしくみと特徴。
- ・仮想通貨の価格推移と貨幣機能。
- ・仮想通貨と現行貨幣の貨幣性を比較考察。
- ・循環論法から説明する貨幣理論への批判。

3. 先行研究

(1) 先行研究の内容

- ・仮想通貨システムは暗号技術が駆使され偽造ができないしくみをもつ。
- ・国際決済の手数料が格段に安くなる。
- ・仮想通貨の未来通貨としての期待。
- ・循環論法としての貨幣理論。「貨幣はみな貨幣と認めるから貨幣である」。

(2) 本稿の視点

- ・仮想通貨は貨幣として流通するのか。信用貨幣論から考察。
- ・ビットコインは、偽造困難の電子データの取引システムであるが、単なるデータであり、貨幣としての条件をもたないのではないか。
- ・商品貨幣や信用貨幣のような貨幣の性格をもつ条件が大事。現行貨幣は、負債という性質が貨幣性のもとになっており、手形や銀行預金が購買や蓄蔵の役割をするのではないか。
- ・未来通貨として期待できないのではないか。

4. 研究方法

- ・現実分析：仮想通貨（ビットコイン）の価格推移の分析。貨幣機能分析。
- ・理論分析：信用貨幣論による現行貨幣、仮想通貨の分析

5. 研究の意義

- ・新たな貨幣システムとして期待される仮想通貨の貨幣性を分析するとともに、現行貨幣

の貨幣性の根拠を確認し、(理論を失っている感のある)現代の不換制下の貨幣システムの分析を行う。

6. 参考文献

岩井克人 [1999] 「電子マネーの貨幣論」西垣通編『電子貨幣論』所収、NTT 出版。

岩下直行 [2018] 「仮想通貨について」學士會会報No.932。

小幡道昭 [2018] 「仮想通貨の貨幣性・非貨幣性」経済理論学会全国大会報告。

岡田仁志 [2018] 『決定版 ビットコイン&ブロックチェーン』東洋経済新報社。

竹内晴夫 [1996] 「信用の不確実性と制度的対応」河村哲二編『制度と組織の経済学』日本評論社。

竹内晴夫 [1997] 『信用と貨幣』御茶ノ水書房。

中島真志 [2017] 『After Bitcoin アフター・ビットコイン』新潮社。

西部忠 [2014] 『貨幣という謎 金と日銀券とビットコイン』NHK 出版。

野口悠紀雄 [2014] 『仮想通貨革命』ダイヤモンド社。

野口悠紀雄 [2018] 『仮想通貨はどうか』ダイヤモンド社。

山口重克 [1984] 『金融機構の理論』東京大学出版会。